

当紙、8月22日号(185号)はガンを知ろうと言うことで、ガン全般に関する記事を掲載しました。そして特に乳ガンに関する知識を取り上げました。今号では「子宮ガン」について、取り上げます。

... ..

さて、一般的には使われますが、医学的には『子宮ガン』という病名は存在しません。あるのは正式には「子宮体ガン」(子宮内膜ガン、子宮体部ガン)と「子宮頸ガン」(子宮頸ガン、子宮頸部ガン)の2種類です。

この2種は全く異なる種類のガンで、その原因、発生部位、頻発年齢は異なります。

まず、「子宮体ガン」: 子宮は女性の生殖臓器で、骨盤の中央に位置しています。子宮の出口付近(膣に近い部分)を子宮頸部、子宮の上部、袋の部分を子宮体部と呼びます。それぞれの部位に生じるガンを子宮頸部ガン(子宮頸ガン)、子宮体部ガン(子宮体ガン)と呼んで、区別しています。

子宮体ガンの発生する率は子宮頸部ガンに比べて少なく、10%未満でしたが、最近では子宮体部ガンの患者さんが増加傾向にあり、子宮ガン全体の2~3割程度になって来ました。年齢的には40歳代から増え始め、50~60歳代で最も多いのが特徴で、閉経期前後から閉経期以降、比較的早い時期の疾患であると言えます。症状は

- ・ 月経以外におかしな出血が長く続く。
- ・ 閉経期の頃、月経の上がりが遅い。
- ・ 閉経後に不正出血がある。

などです。そのほか排尿痛、排尿困難、性交時痛、骨盤領域の痛みなどがあります。怪しいと思ったら、早めに検査を受けられることをお勧めします。

次いで、「子宮頸ガン」: ほとんどの子宮頸ガンは扁平上皮ガン(皮膚の底のほうからガン(悪性)化し、増殖していくタイプ)で、ヒトパピローマウイルス(HPV)の長期間の感染により発症することが明らかになりました。このガンの最大の特徴は予防可能であるということです。その部分において異形成(子宮ガンに成る前の病変)が発見可能なのです。さらに、このウイルスを絶滅するのに10歳過ぎてからの3回のワクチン投与で90%、20年間、その心配から解放されます。(このワクチンについてはかかりつけのお医者さんか健康管理センターにお問い合わせ下さい。なお、このワクチン投与については費用、機会など、国の責任とする方向にあります。)

一般的に、上記2種を併せて言う「子宮ガン」は早期の段階で発見されれば殆どが治ります。

いちばんよく見られる症状は不正出血、血性のおりもの、あるいは茶色がかかったおりもの、悪臭のするおりものなどです。そのほかに骨盤内や背中、足に痛みがあったり、排尿痛や排尿困難、体重減少や全身の脱力感などがあります。閉経後に不正出血があるときは早めに検査を受けるとよいでしょう。

ガンの診断、治療は急速に進歩しており、色々な治療法が登場しております。しかし、どのガンにも有効と断定できる治療法はまだありません。このため、外科治療(手術)、化学療法(抗ガン剤治療)、放射線治療などの治療法をいくつか組み合わせます。この組み合わせはガンの病期(進行の程度)や病態によって決められます。

ついでながら、子宮体ガンになる女性は同時に乳ガンの発生率も高くなる事が分かっています。また、乳ガン治療に使われる「タモキシフェン」剤を長期使っていると子宮ガンになる確率が上昇するとも言われます。このあたりを一応承知していて、担当医とご相談なさるのはいいことだと思われま

《余 談》 赤ん坊の指しゃぶり

赤ん坊は本能的におっぱいを吸います。この本能が満たされないとき、あるいは何かに物足りなさを感じていると指をしゃぶることが多いと言われています。

指しゃぶりは生後2~3ヶ月頃から始まり、2~3歳くらいで自然に治っていくのが普通です。丁度、外で遊ぶようになる時期です。但し、4歳くらいになってもまだ指しゃぶりが治らないようだったら、心身の発達や環境に問題がないかチェックする必要があるように思われます。甘やかしすぎていないか、逆にほったらかし過ぎていないか。親のわがままを子供に押しつけていないか。また、外で元気に遊んでいるか、友達と仲良くできているか。

日々の、親の赤ん坊に対する少しの気配りと改善で、赤ん坊の心が満たされれば、不安が解消されれば、こんな喜ばしいことはありません。

... ..

【あ と が き】 1) 当院、総合待合室に目下展示中の100号近い静物画は杉並淑江さん(元、小浜市四谷)の90歳になってからの作品です。屈託無く、生き生きと生きてこられた方の雰囲気が出ています。 2) 本人には何の悪意もないのに一寸した言葉で非難、排除しようとするジャーナリストや反対政党の言がはびこっています。いやな時流です。皆さんはそうでありませぬように。